第1章

都市づくりの基本理念と目標

1－1　将来都市像

1－2　底流となる都市整備のキーワード

1－3　都市づくりの基本理念

1－4　都市づくりの基本目標

1－5　将来都市構造

1－6　将来人口フレーム

1－7　将来都市構造図

1－1　将来都市像

本都市計画マスタープランが、市民の方々に身近に感じられ、また、まちづくりの方向性を共有いただけるように、基本理念や目標を総括する、小山市のめざすべき将来都市像（テーマとキャッチフレーズ）を以下のように定めました。

テーマ

水と緑の豊かな自然環境に囲まれながら　地域の歴史や個性を大切に

市民一人ひとりが生き生きと　新たな活力と賑わいを育みながら

美しく快適な生活環境のなかで　自然やまち、ひととふれあいながら

みんなが豊かに安心して暮らしていける

ゆとりとやさしさに包まれて

個性的で市民みんなが誇りをもてる

時代を先取りして　次代につなぐまちづくり

市全体キャッチフレーズ

本都市計画マスタープランのテーマを踏まえ、右頁にあるような想いを一つひとつの言葉に込めて、市全体の目標を以下のように定めました。

水と緑の大地に陽をうけて
優しく美しいふるさと小山のまちづくり
ふれあいと安心を大切にしたまちづくり

みんなで考え　みんなでつくる
水と緑と大地のふるさと　みらいに誇れる　わが小山

緑（りょく）　陽（よう）　優（ゆう）　美（び）・ふれあい　あんしん都市　おやま

小山市都市計画マスタープラン

■「水と緑と大地」の豊かな自然環境と誇れる歴史・文化的資産

緑

母なる思川の流れ、貴重な平地林* の緑、生命を育む田園環境や自然。
いにしえから連綿と続く誇れる小山の歴史・文化。

■ 元気で健康な市民、小山の明るい未来と活力

陽

元気で生き生きとした市民の暮らし。活力ある産業と豊かな文化。
グローバル* な北関東拠点都市としての明るい未来。

【グローバル】
：世界的視野に立った、全体的な、の意味。

■ 人や環境にやさしく、持続的に発展する都市

優

子どもから高齢者まで、全ての人にやさしい、ユニバーサルデザイン*
の都市環境。地球環境にやさしく、共生するエコロジカルシティ* 。
急激でない着実で持続的な小山の発展。

【ユニバーサルデザイン】→p24
【エコロジカルシティ】→p24

■ 地域特性に応じた、小山らしい、美しい都市景観

美

緑豊かで潤いのある魅力的な街並みや、ゆとりと安らぎのある
美しい田園風景。小山らしさを創出し、心がなごむ都市景観・美観。

■ 都市と農村の交流や、ふれあい豊かな地域コミュニティ

ふれあい

小山の良さを実感できる、様々な交流やネットワーク* の広がり。
お互いに支えあい・助け合い、地域の明日を創る温かいコミュニティ* 。

※地域の大切にすべき言葉として、各地域共通してアンケート上位

■ 誰もが安全で、安心して暮らせる人にやさしい都市空間

あんしん

災害に強く安全であること。子どもからお年寄りまで、
誰もが安心して移動や活動でき、安心した生活が送れる小山。

※市全体で大切にすべき言葉としてアンケート1位の「安全」を言いかえた表現

■ 生活基盤の整った快適で利便性の高い都市環境

都市

市民生活の舞台そのもの。便利で使いやすい道路や交通。
憩いと安らぎの公園。集落も含めた良好な生活環境。

■ 個性的で魅力ある小山市

おやま

住みつづけたい、住みつづけられる。みんなで誇りをもって支えあう。
個性的で特徴あるみんなのふるさと小山市。

1－2　底流となる都市整備のキーワード

まちづくりの基本理念や目標・将来都市像、具体的施策を検討し、また実現していくための底流となり、念頭に置くべき都市整備のキーワード（視点）は、以下のように整理されます。

総合的個性化

［アイデンティティ* ］

【アイデンティティ：identity】
：「それ自身であること」の意味で、対象となるものをそれ以外のものから際立たせる、個性化するということ。

画一・均一的なものから、地域特性や地域資源を活かし、「小山らしさ」の際立った、独自性や先見性のある魅力的なまちづくり。様々な要素が組み合って輝く、総合的な個性化を念頭に置きます。

持続的に発展する都市構造

［サスティナブル* ］

【サスティナブル：sustainable】
：「持続可能な」の意味で、自然や産業などの資源を長期的に維持しながら利用のニーズを満たすこと。

【ストック】
：「蓄え」の意味で、主に既存の都市基盤や建築物等を示す。

都市の活力を生み出す産業基盤を支える都市基盤や都市施設の充実とともに、自然環境や歴史・文化を保全・継承し、既存ストック * の活用や身近な環境の改善・充実などによる都市の活力を創出しながら、着実で持続的な発展が可能な都市構造の構築を念頭に置きます。

環境共生・循環型の都市づくり

［エコロジカルシティ・コンパクトシティ* ］

【エコロジカルシティ：ecological city】
：環境共生・循環型の視点を取り入れた都市像。

【コンパクトシティ：compact city】
：住宅・商業・業務等の都市機能を一定の地区に集積することで、市街地の広がりを限定し、その中で公共交通機関の充実を図り、車に大きく依存しなくても生活できる都市を示す。

都市と農村の調和、豊かな自然との共生やふれあいを大切にするとともに、公共交通機関等を活用した総合交通体系の構築や、緑化の推進、資源・エネルギーのリサイクルなど、環境負荷の軽減に配慮した、環境にやさしい循環型都市づくりとともに、非効率な拡散的都市づくりでない、コンパクトに機能する市街地形成を念頭に置きます。

人にやさしい都市環境

［バリアフリー・ユニバーサルデザイン* ］

【ユニバーサルデザイン：universal design】
：あらゆる人が使い易いよう工夫されたデザイン、取り組みの考え方。

【ヒューマンスケール】
：ほどよい人間的な尺度。人間の感覚や行動に適合した、適切な空間の規模やものの大きさのこと。

子どもからお年寄りまで、全ての人が安心して暮らせるバリアフリー* 環境、また、誰にも分かりやすくて使いやすいユニバーサルデザイン * に配慮しながら、ヒューマンスケール * で人にやさしい都市環境の形成を念頭に置きます。

［ランドスケープ* ］ 美しい都市景観

緑や河川などの自然環境や固有の歴史・文化を大切にしながら、市街地と田園環境が調和した、緑豊かでゆとりと潤いのある、誇りと愛着の持てる、魅力的で美しい都市景観の形成を念頭に置きます。

【ランドスケープ：landscape】
：自然物（平地林や河川等）と人為的構造物（建築物や道路等）から構成される景観のこと。

［ネットワーク* ］ 資源・機能の有機的な連携

自然や歴史・文化的資産、公園・緑地、公共公益施設、イベントなど、様々な地域資源・財産をネットワーク* させ、新たな機能発揮や市民活動・交流の活発化につながる、資源・機能の一体的連携環境が実現することを念頭に置きます。

【ネットワーク：network】
：同種類または関連性のある様々な物や人、情報等をつなぎ合わせること。

［システム・コントロール* ］ まちづくり推進・支援

まちづくりの着実な実現に向けて、地域特性や実状に応じたまちづくり事業や制度の活用・創設、情報提供や人材育成、連携体制の強化など、的確で効率的なまちづくり推進・支援の仕組みづくりとともに、それらを総合的かつ計画的にコントロール* していく視点を大切にすることを念頭に置きます。

【システム：system】
：目標の実現に向けた仕組み。

【コントロール：control】
：上記のようなシステムから外れないように誘導・規制すること。

［インタラクティブ* ］ 市民参加と双方向活動

市民参加とともに、市民・企業・行政等のパートナーシップ（協働* ）によるまちづくりを進めるため、市民一人ひとりの意識の醸成と様々な参加機会の創出、知識・情報の共有化・ネットワーク* 化など、対話型の双方向活動の機会を多く設けていくことを念頭に置きます。

【インタラクティブ：interactive】
：「相互に作用する」の意味で、例えば、協働により市民と行政が相互に意見や情報を交換すること。

1－3　都市づくりの基本理念

小山市におけるまちづくりを進める上で、そのよりどころとなる大切な考え方を基本理念として以下のように整理しました。

みりょく　【地域特性・地域資源】

：豊かな自然と歴史・文化など、地域特性や地域の様々な資源を大切に、一つひとつの魅力が発揮され、さらに総合的な魅力を創出するまちづくりを進めます。

くらし　【市民生活・産業】

：多様で豊かな生活・ライフスタイル＊が送れ、にぎわいと活力ある産業活動を支える、将来に向かって発展するまちづくりを進めます。

ま　ち　【都市基盤・景観】

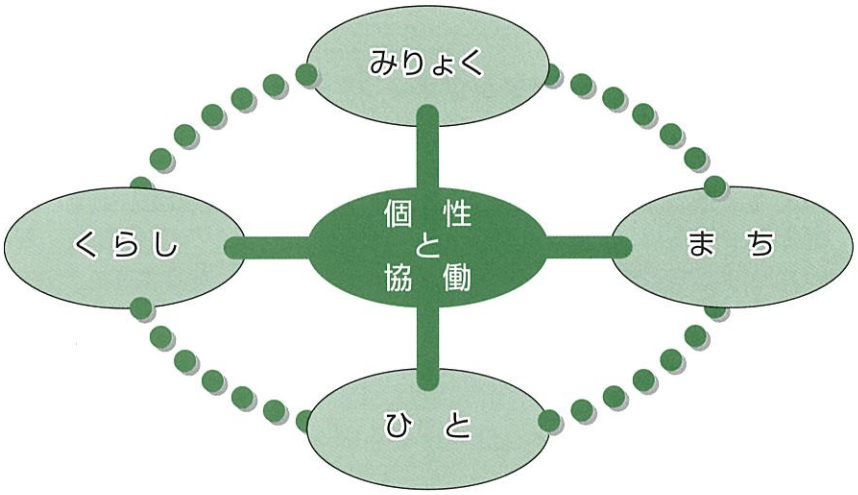
：快適で利便性が高く、安全・安心に暮らせる質の高い、ゆとりと潤いのある美しいまちづくりを進めます。

ひ　と　【市民・地域コミュニティ】

：市民一人ひとりが生き生きと輝く、地域コミュニティ＊を大切にした、人にやさしいまちづくりを進めます。

個　性　と　協　働

：小山市の個性豊かなまちづくりを、市民と行政、企業等のパートナーシップ（協働＊）により進めます。



1－4　都市づくりの基本目標

前項の基本理念を踏まえ、小山市における具体的都市づくりを進める上で、最も基本的で総合的な方向性を示す基本目標は、概ね以下のように整理されます。この６点を都市づくりの中心にすえ、計画を立案し、整備を実現していくことが大切となります。

住みやすく快適・便利な都市基盤の整備　快　適

快適で便利な生活や都市活動を支える、道路・公園等の都市基盤の整備、身近な居住環境の整備をめざします。

豊かな自然や歴史を活かした環境共生型の都市構造の構築　環境・共生

豊かな自然環境や歴史・文化的資産を保全・活用し、また限りある資源を大切にしながら、環境にやさしく、環境共生型のコンパクトな都市構造の構築をめざします。

安全で安心して暮らせる都市環境の形成　安全・安心

誰もが安全かつ安心して暮らせる、災害に強く、バリアフリー＊で人にやさしい都市環境の形成をめざします。

活力ある自立的・発展的な都市機能の充実　活力・産業

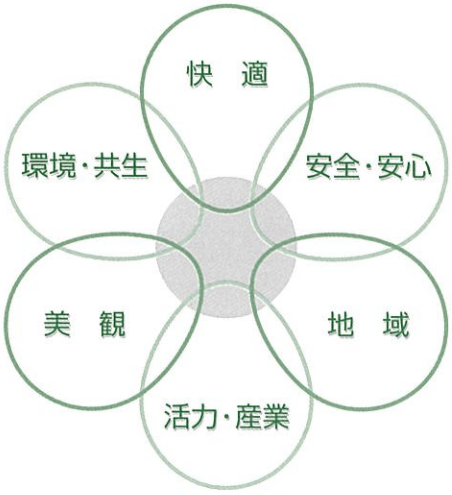
市民生活や産業活動の活性化につながり、様々な交流やふれあいを創出するにぎわいと活力を支える、自立的で発展的な都市機能の充実をめざします。

魅力的で美しい都市景観の創出　美　観

豊かな自然環境や歴史・文化的資産を活かし、市街地と田園環境が調和した、魅力的で美しい都市景観の創出をめざします。

地域特性を活かした特色ある地域環境の整備　地　域

地域資源やコミュニティ＊、交流ネットワーク＊を大切に、それぞれの地域特性を活かした、特色ある地域環境の整備をめざします。



1－5　将来都市構造

都市は様々な要素が重なりあい、機能します。ここでは、小山市の骨格ともいえる将来都市構造を描いてあります。

まちづくりの基本となる都市構造は、市民生活や都市活動を支える都市機能や、豊かな自然環境と市街地等がバランス良く、適正に配置されるとともに、道路などの交通施設が適切にネットワーク＊ されていることが大切です。また、単に都市構造を構成する要素をハード的側面だけでなく、ソフト面として重要な「手法」や「市民参加」を盛り込んであります。

1）将来都市構造の体系

緑　陽　優　美・ふれあい　あんしん都市　おやま

● A：広　域

県南中核都市としての位置づけをふまえ
周辺都市との接点の整備や地域間の連絡促進など
広域的なネットワーク＊ を形成します

● B：点［拠　点］

生活・交通そして地域の節目
規模や地域特性等をふまえ　身近で使いやすく
地域・市民が共有できる拠点づくりを進めます

● C：線・軸［路線／ネットワーク］

市民生活や都市活動を支える道路・交通の骨格
思川は自然・歴史をネットワーク＊ する
これら交通施設網・都市軸の整備充実に努めます

● D：面・ゾーン［土地利用］

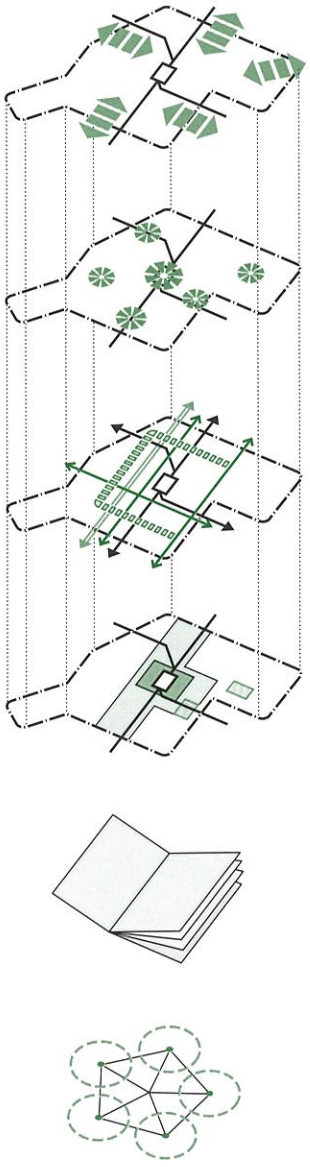
市街地と田園地帯の共存に留意しながら
「小山らしさ」を大切に　様々な用途が調和した
彩り豊かな土地利用の推進・誘導を図ります

● E：手　法［システム・コントロール］

地域のまちづくりを市民が支え
美しい都市景観を創出していくために
効果的な支援システム＊ ・仕組みを構築します

● F：市民参加［コミュニティ・生活圏］

「市民都市小山」のまちづくり
市民が発想し　まちを支え　育んでいくことで
地域コミュニティ＊ の輪も広がります



2）基本的考え方

● A：広　域

県南の中核都市として、また利便性の高い交通の要衝としての位置づけをふまえ、情報・交通などの広域ネットワーク＊ 形成を図ることで、近隣都市との広域的な連携や有機的な地域間の連絡を促進していくことが大切です。

● B：点［拠　点］

自立性の高い都市づくりをめざしながら、利便性が高く快適な市民生活を実現するため、鉄道駅や市役所といった既存拠点について、効果的にその活用を図ります。また、地域コミュニティ＊ 施設や史跡等を活用した地域拠点を位置づけ、地域特性や規模等を考慮した、個性豊かな整備を進めることが大切です。

● C：線・軸［路線／ネットワーク］

現在の基本構造を踏まえ、市民生活や都市活動を支え、地域の一体性を確保し、近隣都市間・各地域拠点間の連絡強化を図るための、骨格となる交通施設網（幹線道路網／公共交通網）を位置づけます。

また、思川流域における豊かで美しい自然・歴史文化等をネットワーク＊ する交流軸を位置づけ、自然環境の保全や活用を図っていきます。

● D：面・ゾーン［土地利用］

小山の「水と緑と大地」を象徴する、優良な自然環境と豊かな田園地帯を大切にしながら、それに囲まれ、様々な機能が適正に配置された「小山らしい」市街地を形成します。

また、様々な都市機能・拠点等が複合的に集約された区域などについては、一定のゾーンとして位置づけ、活用を図ります。

● E：手　法［システム・コントロール］

計画の実現に向けて、市民と市が協調・協働＊ しながら行う活動への様々な支援方法や具体的方法の検討、また良好な生活環境・まちなみ景観の形成を誘導するための指針づくりなど、総合的なまちづくりの実現に効果的なシステム＊ ・仕組みの創出に努めていくことが大切です。

● F：市民参加［コミュニティ・生活圏］

「市民都市小山」として、明日の小山のまちを支え、育んでいく人材を育成することが大切です。また、都市計画マスタープランの具体化、展開にあたって、様々な市民参加の機会を設ける必要があります。何より、それらの機会や活動が地域住民の意識啓発や地域コミュニティ＊ の活性化・連携化に寄与し、更に市民の輪が広がっていくことが大切と考えます。

3）将来都市構造

点［拠　点］の形成

中心拠点

小山駅周辺は、本市の中心市街地であり、「中心拠点」として、商業・業務や行政、文化等の機能集積、交通拠点機能の向上、魅力的な街並みの形成等を図ります。

地域交通拠点

間々田駅と思川駅周辺は、「地域交通拠点」として、交通拠点機能を向上し、周辺地域の生活中心として、日常生活に対応した商業、コミュニティ* 機能の整備･充実等を図ります。

地域拠点

地域の核となる公民館や小・中学校などは、「地域拠点」として、コミュニティ* 機能の整備・充実を図ります。

レクリエーション拠点

小山遊園地周辺は、「レクリエーション拠点」として、レジャー機能等の充実を促進します。

都市と農村交流拠点

道の駅* 周辺は、「都市と農村交流拠点」として、交通機能及び地域の産業振興機能の充実を図ります。

みどりの拠点

小山総合公園、小山運動公園、やすらぎの森周辺は、「みどりの拠点」として、市民の憩いとスポーツ・レクリエーション機能の充実を図ります。

歴史文化の拠点

城山公園、琵琶塚・摩利支天塚古墳、乙女河岸、旧思川、寺野東遺跡公園周辺は、「歴史文化の拠点」として、自然環境とともに歴史文化の交流機能の充実を図ります。

線・軸［路線／ネットワーク* ］の形成

Ⅰ 南北交流軸

JR宇都宮線・東北新幹線、国道4号、新4号国道を「南北交流軸」として、東京方面、宇都宮方面へのアクセス* 強化により、広域的道路･鉄道ネットワーク* の形成を促進します。

Ⅱ 東西交流軸

JR水戸線・両毛線、国道50号を「東西交流軸」として、水戸方面、高崎方面、東北自動車道や北関東自動車道などへのアクセス* 強化により、広域的な道路・鉄道ネットワーク* の形成を促進します。

思川文化交流軸

思川流域を「思川文化交流軸」として、周辺の公園や緑地空間、歴史文化拠点など、思川沿いの地域資源の活用を図る、水と緑と大地のネットワーク* 形成を促進します。

環状道路

都心環状、内環状線及び外環状線を「環状道路」として、通過交通の防止や主要施設間のアクセス* 強化など、円滑な交通処理により、骨格的道路網の形成を促進します。

面・ゾーン［土地利用］の形成

主にJR宇都宮線沿線の市街化区域＊を「住宅地ゾーン」として、地区の特性に応じた住環境整備により、安全・快適な住宅地の形成を図ります。

住宅地ゾーン

小山駅周辺を「商業・業務地ゾーン」として、商業・業務や行政、文化等の多様な都市機能の整備・充実により、回遊性＊のある魅力的な中心市街地の形成を図ります。

商業・業務地ゾーン

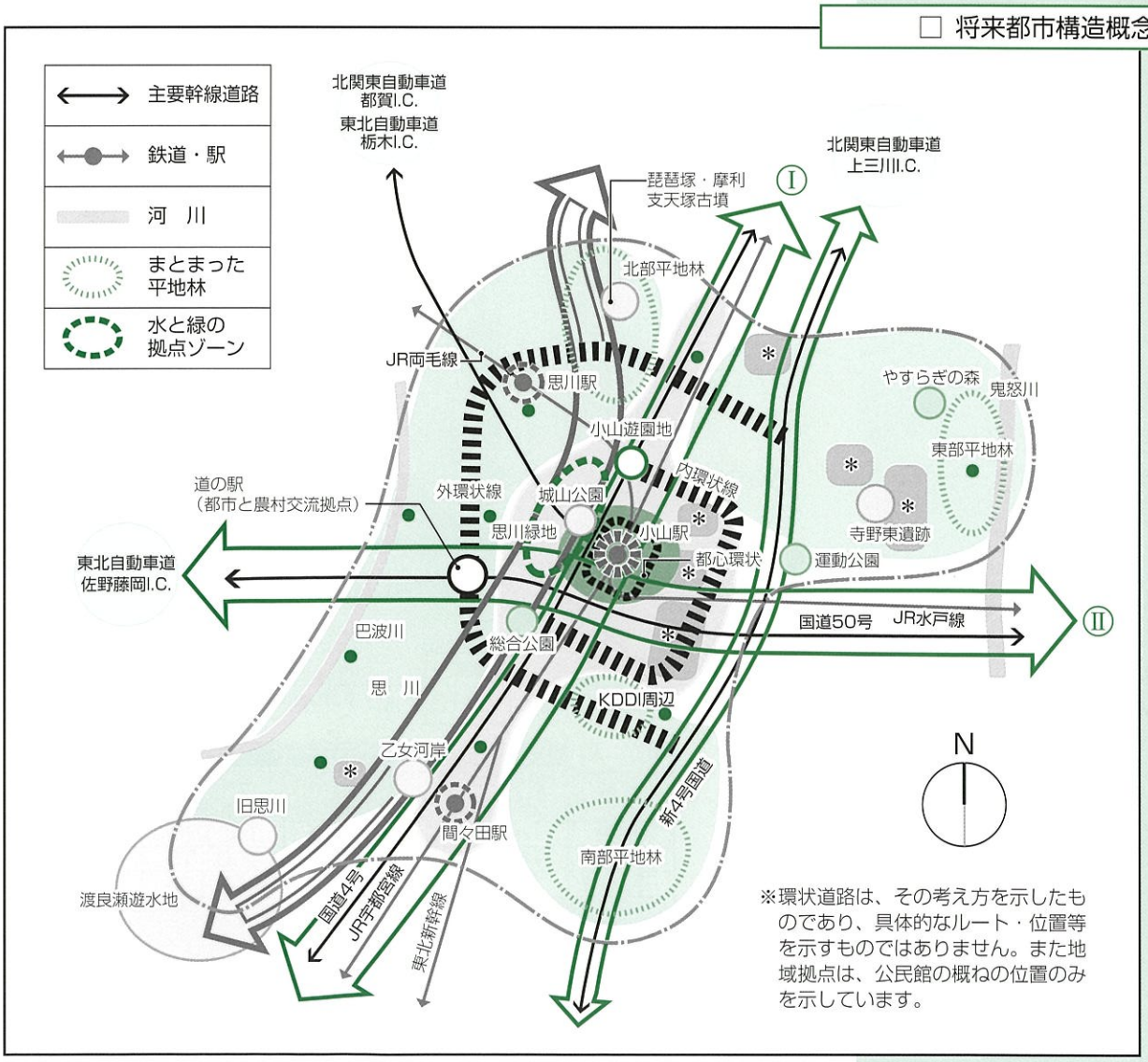
主な工業団地等を「工業地ゾーン」として、交通環境など立地利便性を活かした工業基盤・機能の整備により、本市の活力を支える、環境に配慮した工業・流通業務地の形成を図ります。

工業地ゾーン ＊

市街化調整区域＊の集落や農地、緑地等を「田園・自然ゾーン」として、集落環境の整備、自然環境の保全により、水と緑と大地の豊かな田園・自然環境・景観の形成を図ります。

田園・自然ゾーン

□ 将来都市構造概念図



1－6　将来人口フレーム

【将来人口フレーム】
：将来の想定人口のことで、土地利用や都市施設等の配置や規模を設定する際の基本的な枠組みとなるものである。

※将来人口推計の４つのケース
・ケース１［■］
最小自乗法
：人口は国勢調査（平成２・７・12年）による。
・ケース２［□］
最小自乗法
：人口は住民基本台帳（平成２～12年）による。
・ケース３［●］
コーホート変化率法
：人口は国勢調査（平成７・12年）による。
・ケース４［○］
コーホート要因法
：人口は国勢調査（平成12年）による。出生率等は、栃木県の平均値による。

【ポテンシャル】
：潜在的な発展の可能性。

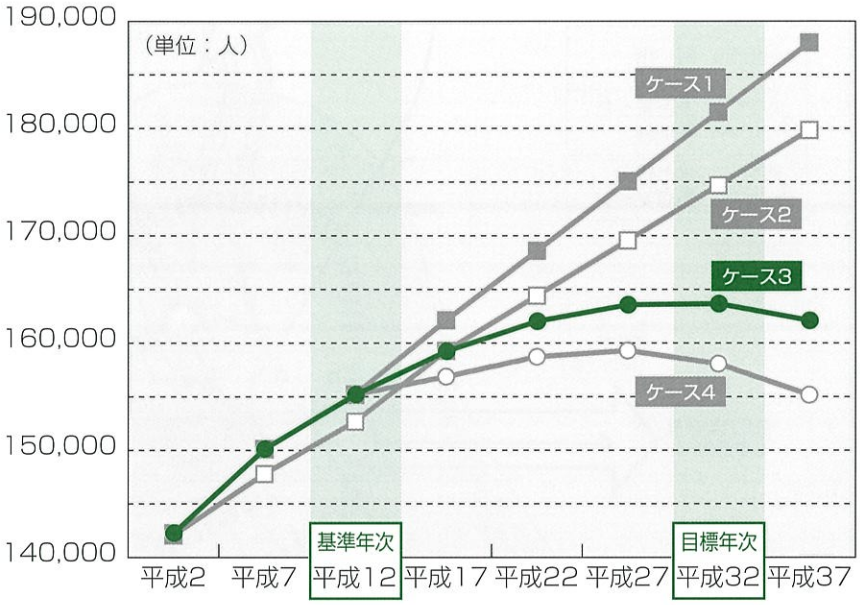
将来人口フレーム＊は、土地利用や都市施設等の配置や規模を設定する際の基本的な枠組みとなります。近年、その算定にあたっては、出生率の低下やライフスタイル＊の多様化、地価の変動などが大きく影響しています。本計画においては、過去からの人口推移と今後の人口動態を鑑みて、４つのケース（方法）で将来人口を推計しました。

これまでのような大幅な人口増加が見込めない社会経済情勢を考慮すると、「ケース１」と「ケース２」の推計結果は妥当ではないと考えられます。

また、我が国の人口は平成18年、栃木県の人口は平成22年をピークに減少すると予測されていますが、本市においては、さらに遅い、概ね平成27年から平成32年頃にピークを迎えると予測されます。さらに、本市は、他都市に比べて未来を担う年少人口（14歳以下の人口）の割合が高いことから、都市の成長や活力を維持していく上で、有利な条件を有しています。

これらのことから、平成32年の本市の人口は、立地利便性や都市機能などの高いポテンシャル＊を活かした住宅や産業、生活環境の充実等の積極的施策展開により、「ケース３」の概ね164,000人に新規居住の積極増加分を付加した範囲になるものと想定されます。

□ 将来人口推計結果



（単位：人）

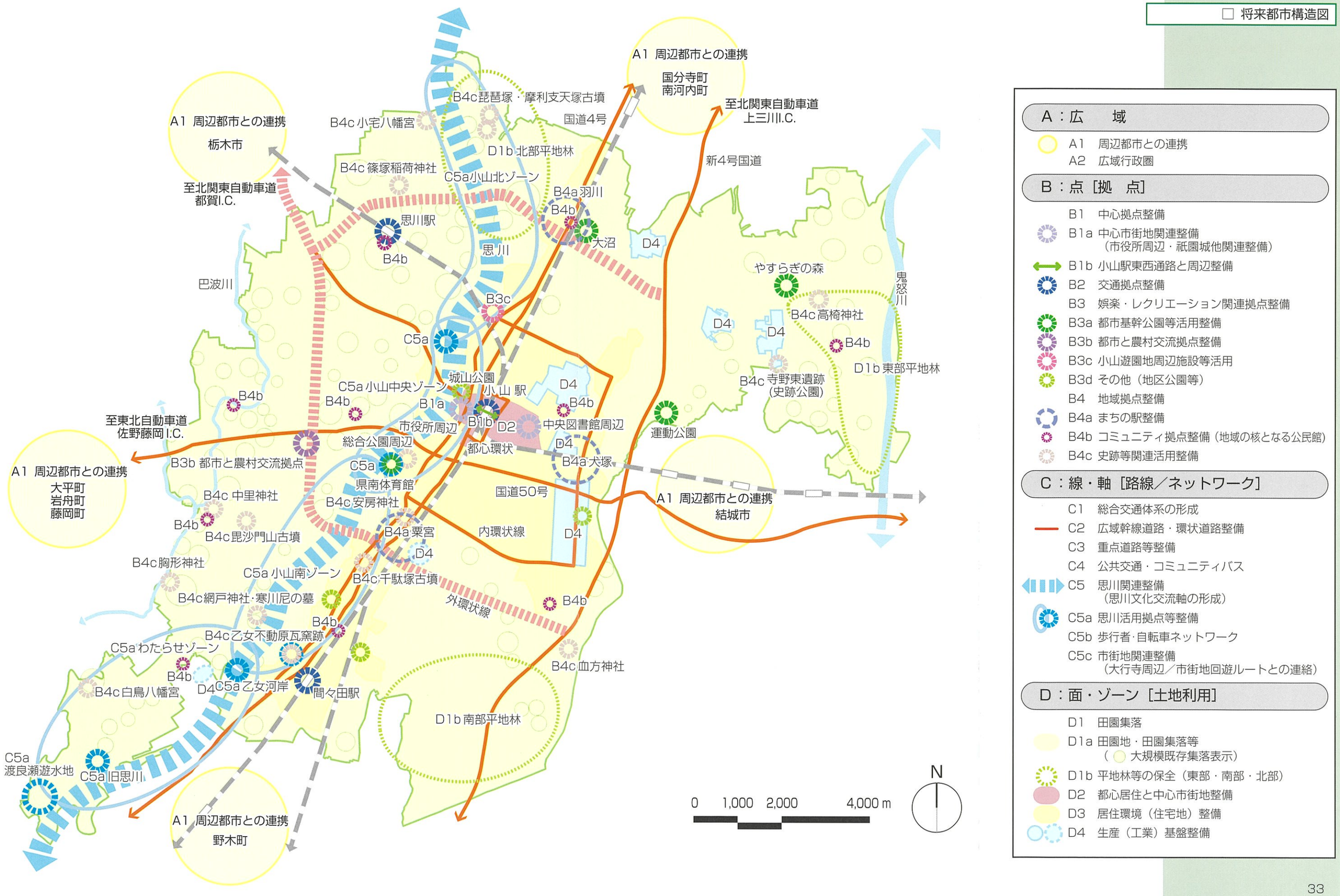
年度	ケース1 最小自乗法（国勢調査）	ケース2 最小自乗法（住民基本台帳）	ケース3 コーホート変化率法	ケース4 コーホート要因法
平成2	142,262	142,071	142,262	142,262
平成7	150,115	147,785	150,115	150,115
平成12	155,198	152,677	155,198	155,198
平成17	162,128	159,281	159,243	156,869
平成22	168,596	164,418	162,030	158,721
平成27	175,064	169,556	163,565	159,296
平成32	181,532	174,693	163,661	158,072
平成37	188,000	179,831	162,095	155,167

※平成2年～平成12年は実数値。平成17年以降は推計値。

【最小自乗法】
：過去の人口推移をもとに、その増減傾向がそのまま将来にも続くものとして推計する方法である。

【コーホート変化率法】
：５歳階級毎の男女別人口構成をもとに、過去からの変化率を用いて推計する方法である。

【コーホート要因法】
：５歳階級毎の男女別人口構成をもとに、出生率や死亡率、人口移動率などの社会的な要因を反映して推計する方法である。

1－7　将来都市構造図

□ 将来都市構造図